

18. 症状および兆候

文献

皆川宗徳、石神龍代、堀茂ほか. 排尿障害に対する封筒法による臨床比較試験-中極穴の有効性について- 全日本鍼灸学会雑誌 1999; 49(3): 383-391. 医中誌 Web ID: 2000067347

1. 目的

排尿症状に対する、主訴に対する治療と、中極への鍼刺激を加えた治療との効果の評価

2. 研究デザイン

ランダム化比較試験 (封筒法) (RCT-envelope)

3. セッティング

開業鍼灸院 9 施設

4. 参加者

9 施設の開業鍼灸院来院患者のうち、排尿障害アンケートで症状のある被検者 90 名。

5. 介入

Arm 1: 中極処置群 (44 名、男性 22 名、女性 22 名、平均年齢 59.8 歳)。主訴に対する治療に加え中極 (CV3) への単刺術 (5-7mm)。

Arm 2: コントロール群 (46 名、男性 20 名、女性 26 名、平均年齢 59.7 歳)。主訴に対する治療のみ。両群とも週 1 回以上の治療で、3 回の治療。

6. 主なアウトカム評価項目

排尿症状に関するアンケート評価。3 回目治療終了後に評価。

7. 主な結果

排尿スコアの推移、夜間排尿頻度、昼間排尿間隔の群間比較で有意差は認められなかった。

8. 結論

中極への鍼刺激は、排尿症状に影響を与えない。

9. 鍼灸学的言及

なし

10. 論文中の安全性評価

記載なし。

11. Abstractor のコメント

排尿障害を持つ患者 90 名を対象とした多施設ランダム化比較試験を実施した点は高く評価できる。実際の鍼灸臨床の現場での研究が可能であることを示した貴重な報告である。ランダム化比較試験としては、サンプルサイズの見積りやランダム割付け、マスクなどの実施についての記載がないのが残念である。また、介入についても、通常の治療をコントロールとし、介入群については中極穴を加えたのみである点についても、ポジティブな結果が得られなかった原因の一つと考えられる。多施設ランダム化比較試験が実施できた事を踏まえ、前述の問題点を見直した研究報告が期待される。

12. Abstractor

篠原昭二 2011.1.31